

20/9/14 名古屋市長記者会見（名古屋城部分）

（名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし）

記者： 名古屋城についてですけども、先日の石垣部会で文化庁から求められていた4項目の指摘事項を来年4月に返すというようなスケジュール案が示されましたけれども、もともと来月10月ぐらいに返そうとしてたスケジュールだったので、ちょっと遅れたことにはなってしまうんですけども、全体への影響っていうですかね、お城が完成するまでの影響というのはどのようにお考えでしょうか。

市長： とにかく全体的な大きな根本的影響はないと思ってますけどね。

文化庁さんの方からも進めましょうやと。

だけど、部会の皆さん、学者の方とはちゃんと意見をまとめて進めてちょうだいよ、ということでございますので、一応、一応じゃないけど局長の方からスケジュール案だしまして、それをどういふか、異議はなかったということは間違いなかったというでございますけど、そういう状況でございます。あとは石垣の保存方法を巡って、学者皆さんに専門家ですからね当然皆一家言ある人ばかりだでねこれは。話し合って進めていくことが僕はできると思いますよ。

市長からすると一週間位なるかこれ、この間1千万の現金を持ってきた方がおるんですわ。

これは某区の庶民の爺様ですけど、わしが1千万もらうとこれは記者に言うとな前も書いてくれるテレビも出るでと言ったら、頼むで止めてちょとわしは庶民だで1千万も寄付したかといふかと言われると近所から何言われるかわからんでということになりましたけど、その爺様もとにかく早うやってちょうと、いふうに言っておられました。

やっぱり上がりたいと、木造の名古屋の誇りであった400年。上りたいとということでございますので私も同じような気分で、71でございます、いつハイボール飲みすぎて死ぬか分かりませんので、とにかくやっぱね、木造の世界で一個しかない国宝1号だったわけだから復元というやつ。

生命もそうかわかりませんが、死んだけど生き返るです魂は、実は名古屋の魂は。完全に亡くなりましたけどね、5月14日に、昭和20年5月14日ですから、それが生き返るといふのは早うみたいですわね。

木は皆調達してありますし、ほんの一部ちょっとないのは、ちょっと工法で議論があるところだけ、そこ以外はもう木も調達してあって、ええものができますよ。復活のシンボルとして人生復活のシンボル。挫折した人はみんな名古屋城の一番上にあがって一発俺も頑張るぞということですよ、いうことですね。木の文化といふのは、今度はよっぽど

言われんでしょう。某新聞にも、一旦燃えてまったで本物でないって書いてあった論評がありましたけど論説が、

ほんじゃね沖縄の首里城。あれ燃えちゃったじゃないですか、沖縄の皆さんの悲しみ涙とともに。あれ燃えたで今度は新築ですか。じゃエレベータつけてコンクリートで造るのあれ。

そんなこと、守山で言った人がおったけど、タウンミーティングで。そういうご意見だったら一遍沖縄の那覇市街の中心部に行ってマイク持って喋りゃやと。

燃えたんだと、これはもう昔のものではないと。新築だでコンクリートでエレベータつけよ。

と言ってりゃて、本当にそんなこと言ったら殴られるで沖縄の人に。

ということで、燃えたら全部終わりというのは木の文化の場合はやっぱり違うんじゃないの。

人間でもそうじゃないですか。死んだら終わりかねやったり。河村さん死んだら終わりだという人もありますが、いろんな精神や魂は引き継ぐという意見もありますよ。

まァ力んどってはいかんけど。

記者： 朝日新聞の関と申します。

市長が寄付について触れましたので確認するんですけども、名古屋城のですね、天守閣積立基金だったと思うんですけども 100 億円を目標にされておりましたが、100 億を目標とするとされた記憶あるんですけど現在状どれほど寄付が集まっているんでしょうから

市長： 4 億 5000 万円ぐらいだと聞きましたけどね僕。ちょっと違うかわからんけど、4 億 5000 万ぐらいだと聞いておりますけれども。

記者： 4 億 5000 万としましてですね、100 億円の目標について、非常に遠いかなと思うんですよ。

市長： いや、そんなことないですよ。前のことを言いますけど調べましたら、あれは桑原幹根さんが会長になって知事が。名古屋市長小林橘川さん中日新聞の副社長ですけど、これ、この方が桑原幹根さんが会長になってちゃんと分担してですね、財界でこうとやっ取るんですよ、いろいろ。

名古屋の 4 億 5 千万円につきましては、そういうのはナッシングですから、いまんとこ。

協力は頼んどるんですが、全部これ小学生の10円募金とか、それから先ほど言いましたように、本当の庶民の1千万とか、そういうのですから、ですから、本当になってこればというか、某地元も大事、マスコミがどういうふうにやられるかも大きいんじゃないですか。

わかりませんが、

記者： あの市長の前回ですね財界の協力を得たからと思うんですけども、今回財界の協力というのがまだないんじゃないでしょうかね、その気運が高まってないってことじゃないでしょうか。

市長： どうですかね。いろんな議論もありましたし、それは某新聞の社説やコンクリートのままでええと書いてありましたんでねちゃんと。燃えてまったで本物でないねというのが書いてあったんです。エレベータつけよとか、そういうふうではちょっと、やっぱりジャーナリズムの力ってでかいですから、これ。

一番最初の原点はあれなんですよ。名古屋タイムズの記事にありましたけど。

これは桑原幹根さんと建設中ですよね昭和37年と小林橘川さん中日新聞副社長で市長になった人が対談しておりまして、小林橘川さんはそこで事情書いてあります、名古屋城はアクセサリだと書いてあります。でアクセサリで、ほんでまあまあいくら金かかるか分からんけど入場料位は稼げるだろうとそんで県知事もそうだろうなあといって、県知事が答えられとるといような悲しい時代が、個人的な悪口になるといかに、名古屋の戦後というのは全部焼けてまって、これ軍事都市だったんですから、なんだかんだと言って。ようけの人が亡くなってこれ道路ばかり作って青年都市という流れの中で、木造復元の方が中日新聞がアンケートをとってるんだけどね、昭和23年に。実は木造復元が2割多かったんだからねあれ。これ23年、記事本当にありますけど。

あの時代、23年なんて覚えとるかというとな私生まれた年だもんで覚えとんで。名古屋市民の心の中には、やっぱまあ一回おらが自慢の城で持つのは国宝1号、もう一回木で造ってもらえんかなあという気持ちが強かったと思いますよ。でもちょっと頑張ると、そういう雰囲気は一気に出てきます。

記者： はい、ありがとうございました。

これで市長定例会見終了します。

ありがとうございました。